

2005年1月12日(水)

13:00 - 14:00 グループ研究：コンソーシアム

参加者：伊藤(立教大学)、坂下(法政大学)、小野(東邦大学、記録)

欠席者：星野(跡見学園女子大学)

1. 個人分担研究の発表 (それぞれ配布資料あり)

(1) 山手線沿線私立大学図書館コンソーシアムについて：伊藤

- ・明治と立教が発起し、1998年末から協議をスタートさせた。
- ・協定プログラムに列挙されているのは、実施したいことの一覧であり、「研修職員の受入れ」などまだ全く実現していないことも含まれている。
- ・2001年からスタートした図書の貸出サービスについては、提供できる大学のみが行なっている。
- ・「図書館職員の合同研修プログラム」としては、年に3～4回内部スタッフによる講演会を実施している。
- ・明治大学に負担が集中しているなど、問題点もある。

(2) 特殊非営利活動法人 日本医学図書館協会(JMLA)について：坂下

- ・12の委員会が設けられており、歴史が古い分、組織の骨組みがしっかりしている。
- ・研修会も毎年行なうなど充実しており、テキストがPDFファイルで公開されていたりする。

(3) NESLI National Electronic Site Licensing Initiative について：小野

- ・1998年より実施されている英国の学術雑誌のためのナショナル・サイト・ライセンスのプロジェクト。
- ・ナショナル・サイト・ライセンスとしては他にオーストラリアのCAULや、カナダのCNSLPなどのプロジェクトがある。

2. 今後のグループ研究について

- ・人や物が動ける範囲の「地域コンソーシアム」に焦点を絞る
- ・当面、研修会、交換研修プログラムなどを中心に研究してみる
 - ・各大学の人事制度の違いがネック
 - ・図書館スタッフに専門性は必要ない、と思われがち コンソーシアムでなんとかする
- ・PS分科会メンバー所属図書館が参加している(?)、必ずしもコンソーシアムという名が付かない図書館間の協力体制を洗い出す

3. 次回までに行なうこと

- ・地域コンソーシアムにおける人材育成の状況を表にしてみる(坂下さんを中心に)
- ・身に付けたい専門性についてアンケートを行なう(伊藤さんを中心に雛型作成)